

日本銀行
帯広事務所長

鈴木 正信



皆さんは一人で飲食店に入れますか。私は正直苦手です。

一人で入って注文を待つ間、食べている時、誰も私のことを気にしていないのは分かっていきます。分かっていますが、自意識過剰なのか、どこを見たら何をしたら良いのか、気になっってしまうのです。これが例えばカウンターのみの小さなお店になると、更にハードルが上がります。

このため、東京で生活していた頃に一人で食事をする場合、お弁当やコンビニのおにぎ

りなどで済ませてしまうケースが殆どでした。いわんや一人飲みをや、です。

十勝では結婚後初の単身生活です。ここは日本一の食の宝庫であり、さまざまな形態のおいしいそうなお店がそろうにそろっています。おかげさまで、飲食店の魅力が苦手な気持ちを上回り、一人でも飲みに行く習慣が少しずつ付いてきました。そんな生活が思わぬ経験に結び付きます。

昨年の夏頃だったでしょう。ある屋台のお店に入ったところ、対面にお一人お客さんがいらっしやいました。店主さん

との話を盗み聞きしていると、どうやら東京から出張でいらしているようです。思い切った話の輪に入ってみると、子どもの

関係で何だか見聞きしたような話になり、なんとお子さんの通う高校が私の長男の出身校であることが分かりました。その後は、大いに盛り上がり、初対面にも拘らず二次会に突入です。それから一カ月ほど経った頃

でしょうか。今度は一人で同じお店に伺いました。外から店内をのぞくと、一人なら何とかなれそうですが、中のお客さん達

に通われていることが判明しました。その後の盛り上がりようは、もはやお話するまでもありませんね。

東京から遠く離れた小さな（すみません）お店で、たまたまそのタイミングで居合わせただけなのに、縁を感じずにはいられない出来事が続くとは……。これが偶然なのか必然なのか。

ここで入れれば私の完全アウトエイ

界的な数学者で、大道芸人でもあるピーター・フランクルさんが仰っていた言葉です。「歩いていて袖が触れ合うだけの関係であっても、それは偶然ではなく前世からの深い縁があつてのこと。一つ一つの小さな出会いを大切にしよう」という意味ですが、ピーターさんは「日本人にはこの点が足りない。これを心掛けることで人生がより豊かになる」と仰っておられました。

ピーターさんとは平日ほど行動を共にさせていたたきました。街のコンビニで、ホテルのロビーで、エレベーターで、会う方、会う方に、実に自然で心のもつた声掛けをされるのです。正に「袖振り合うも他生の縁」を実践されており、感銘を受けました。

多くの人がこうしたコミュニケーションを心掛ければ、より懐の深い、身も心も豊かな社会になるのかもしれない。私も少しでも見習いたいと思っています。

袖振り合うも他生の縁

かちまい 論壇

状態は濃厚。一瞬怯みましたが、思い切って入店してみたところ、そこはさすがに屋台に来る私

の人生を豊かにしてくださる飲食店さんには感謝の気持ちとでしたが、すぐに話の中に入れていただきました。すると、「袖振り合うも他（多）生の

縁」、これは、昨年の秋に弊行が、今度は私の次男と同じ学校が主催した講演会において、世

さて、今日はどの飲食店さんに行こうかな。